

2012.12.08 岡山大学
学都研究中間報告会&3都市シンポジウム

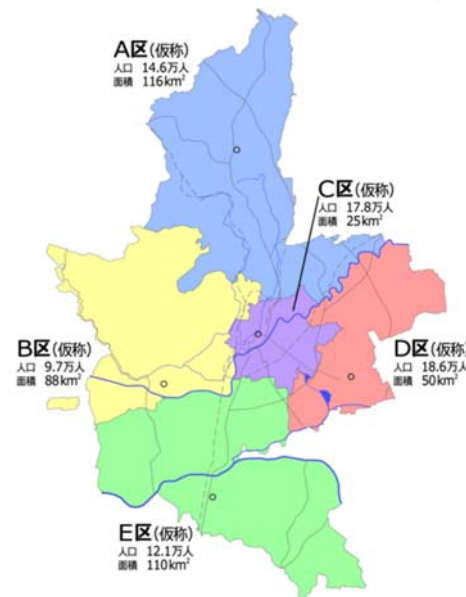
熊本大学工学部 まちなか工房の紹介 2012年度版

熊本大学工学部まちなか工房

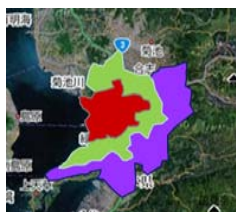
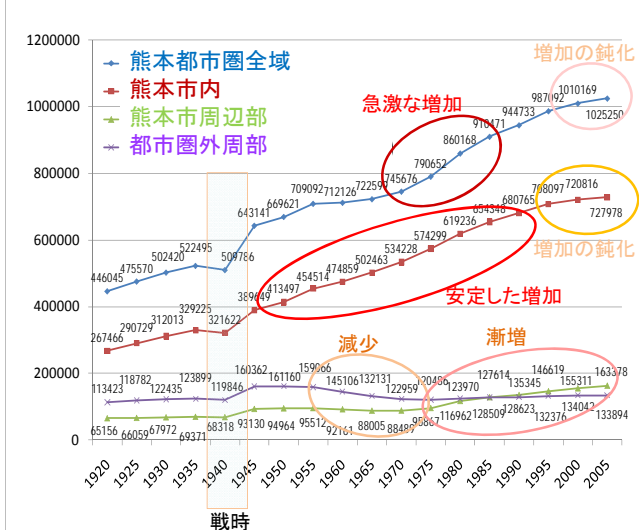
代表 溝上章志
(自然科学研究科 環境共生工学専攻 教授)



面積 : 389.53km²
人口 : 730,812人
世帯数 : 304,224世帯
都市圏人口 : 約100万人



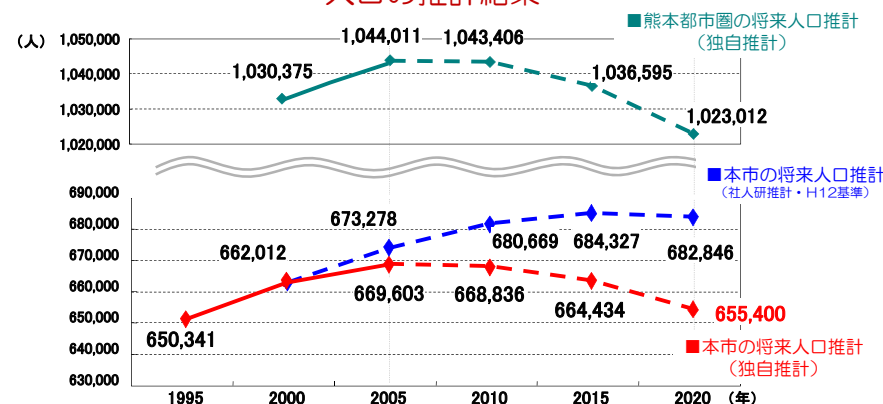
ゾーン別の熊本都市圏のゾーン別人口の推移



- 熊本市内の人口の増加基調は継続だが、90年代以降は増加率が鈍化
- 60-70年代に、外周部で人口減
- 80年以降、市内で急増、周辺部では緩やかな増加
- 都市圏全体ではかなり増加したが、最近10年では増加率が鈍化



人口の推計結果

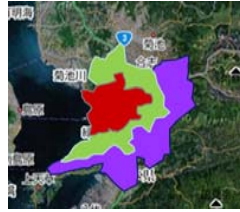
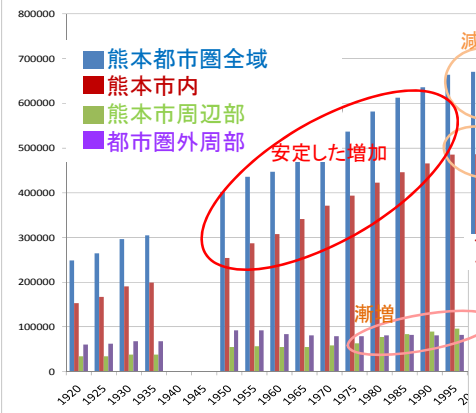


	2005 平成17年	2010 平成22年	2015 平成27年	2020 平成32年
人口(人)	669,603	668,836	664,434	655,400

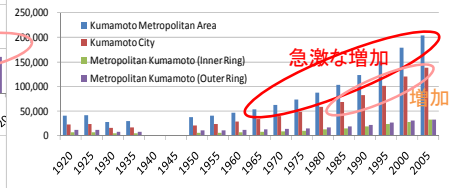
このまま推移すれば、市の総人口は平成19(2007)年をピークに減少に転じる



熊本都市圏の就業年齢人口の推移



熊本都市圏の高齢者人口の推移

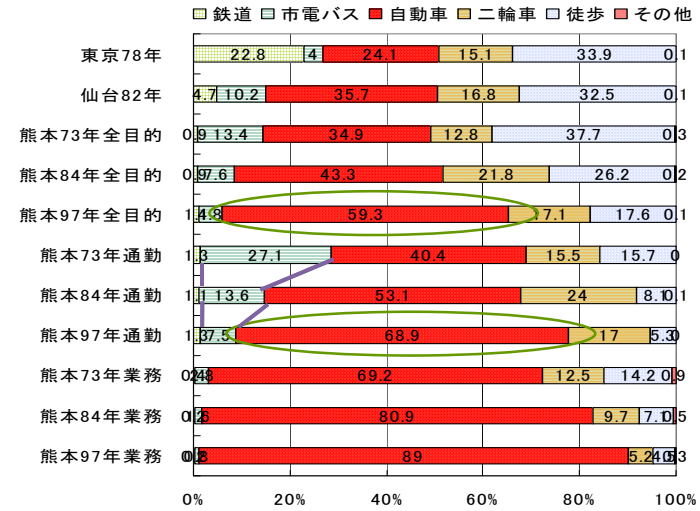


- 就業年齢人口は、1990年まで都市圏、特に市内で安定増
- しかし、1995以降、都市圏全域で減少
- 1995以降、特に市内と外周部で減少
- 市周辺部では1975以降、漸増

- 高齢者人口は、最近50年間で、都市圏全域で急激な増加
- 市内でも高い高齢者人口増加率



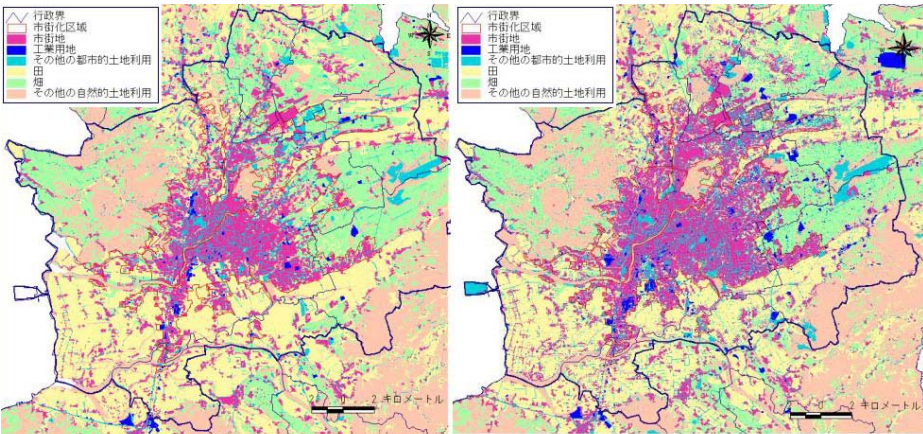
交通機関分担率の比較、経年変化



- 通勤7割
- 全目的でも6割
- JR健闘
- 市電・バス激減



土地利用状況の経年変化



1976年の土地利用状況

1995年の土地利用状況

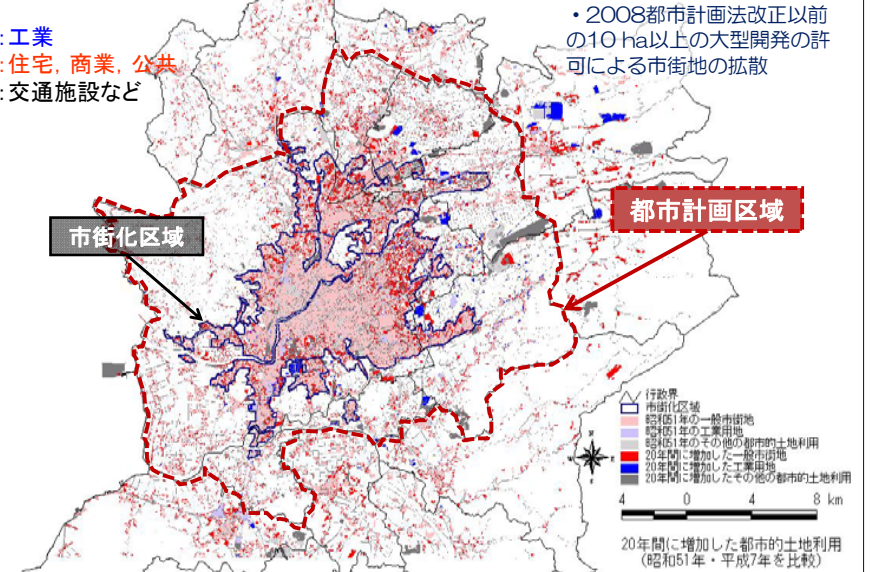
- 都市的土地利用の急拡大
- 特に市街地



1976~1995年の新規開発

- 青: 工業
- 赤: 住宅、商業、公共
- 黒: 交通施設など

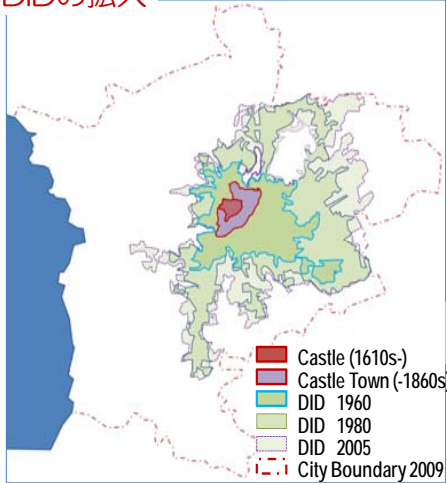
- 2008都市計画法改正以前の10ha以上の大型開発の許可による市街地の拡散



熊本市の概要

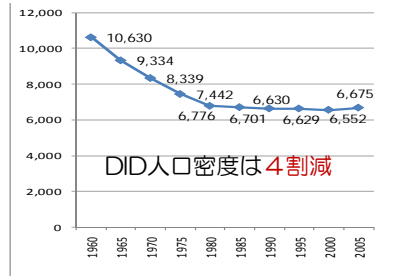


DIDの拡大

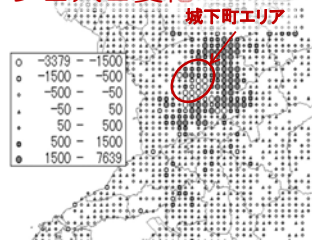


- DID面積は25.9km²から83.3km²へ322%増
- DID人口は275千人から556千人へ203%しか増

DID人口密度の推移(人/km²)



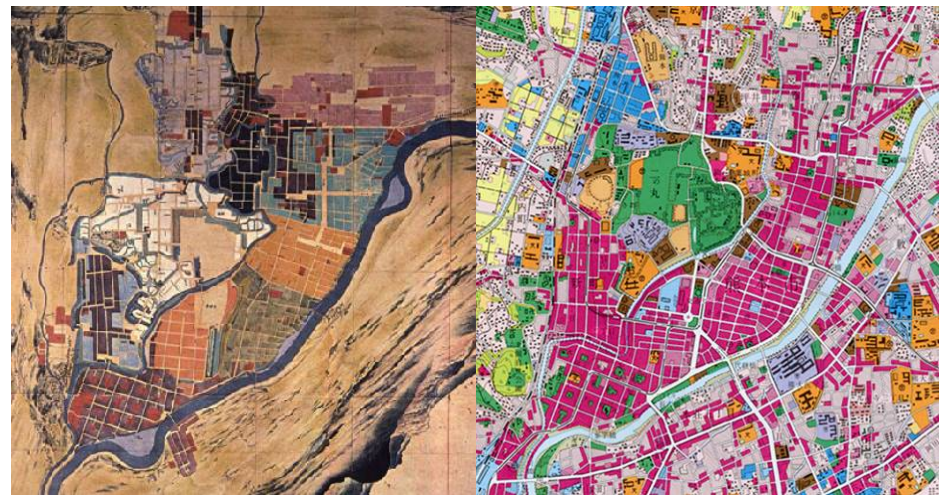
1975-1995の1kmメッシュ人口変化



熊本市の中心市街地



中心市街地の昔と今



幕末の頃の市街地図

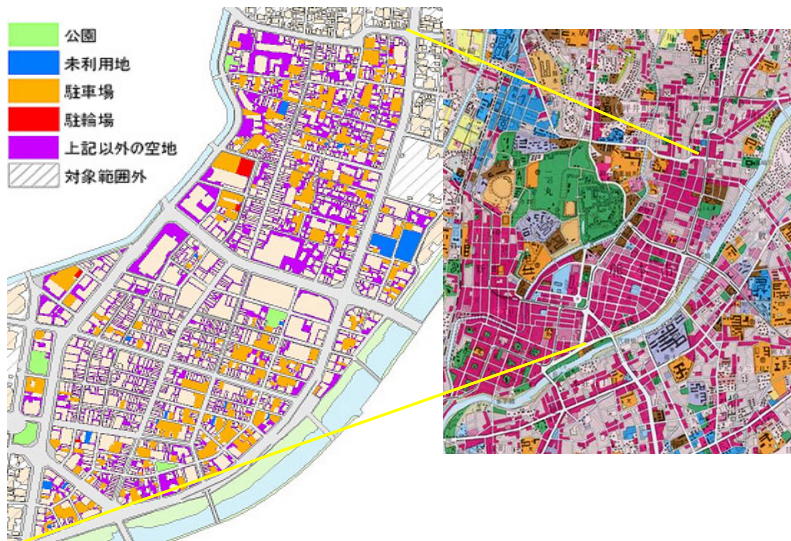
現在の市街地図

面積280haで幕末期の城下町の街区構成そのまま

熊本市の中心市街地



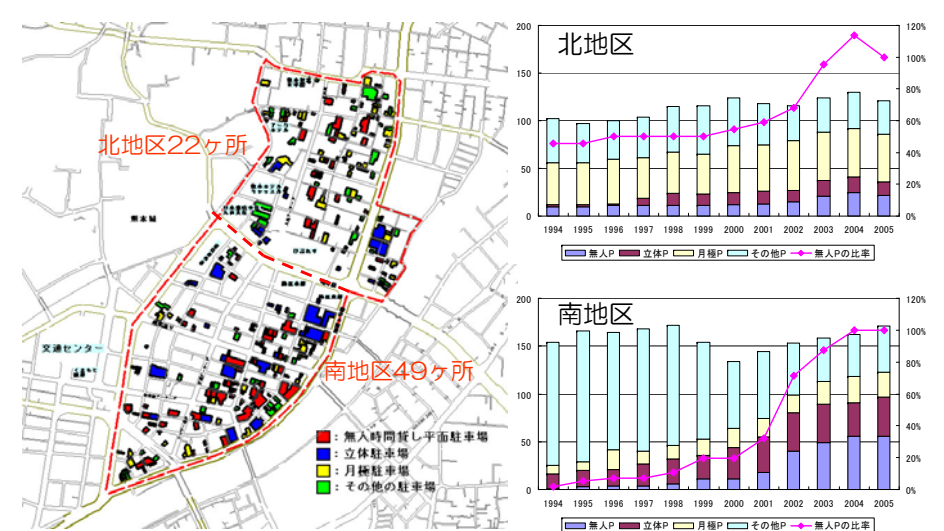
低・未利用地の増加



熊本市の中心市街地



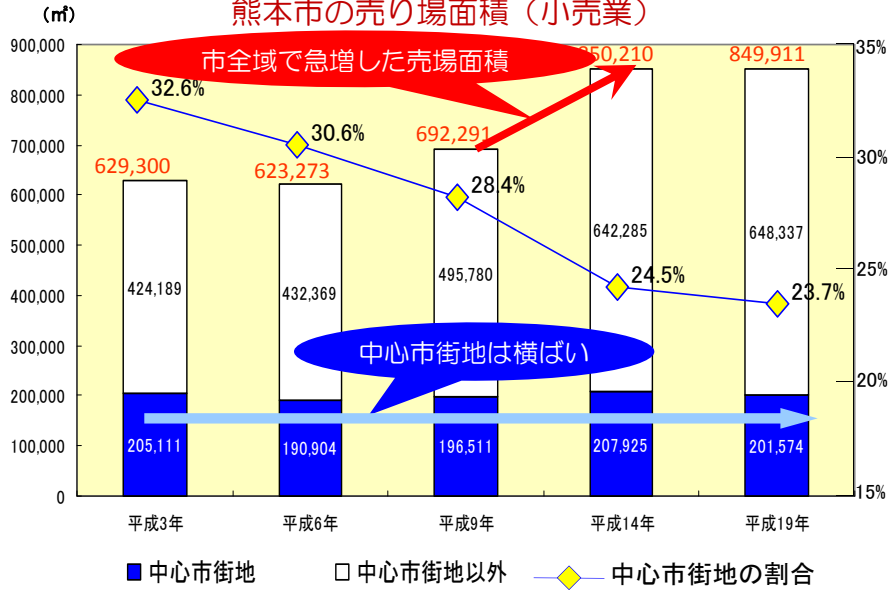
駐車場敷地数の変化



熊本市の中心市街地



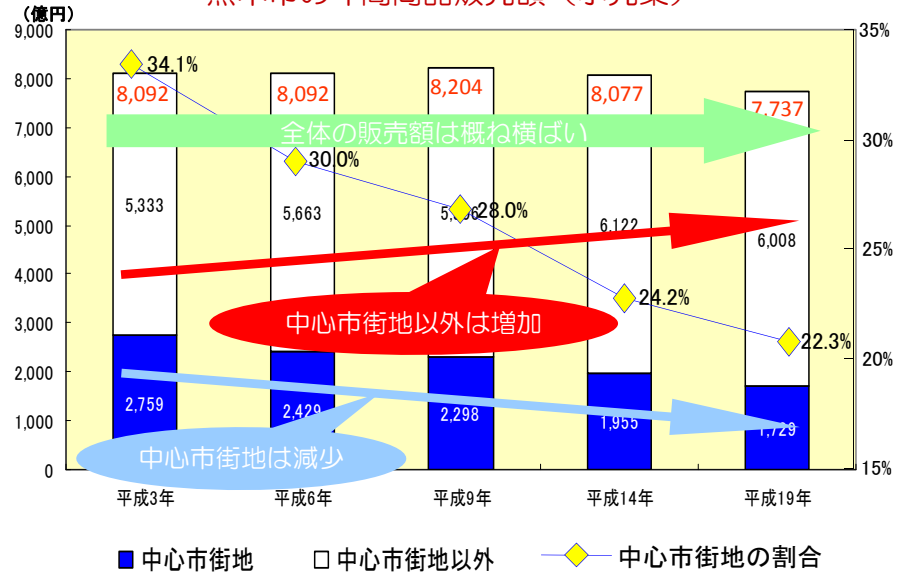
熊本市の売り場面積（小売業）



熊本市の中心市街地



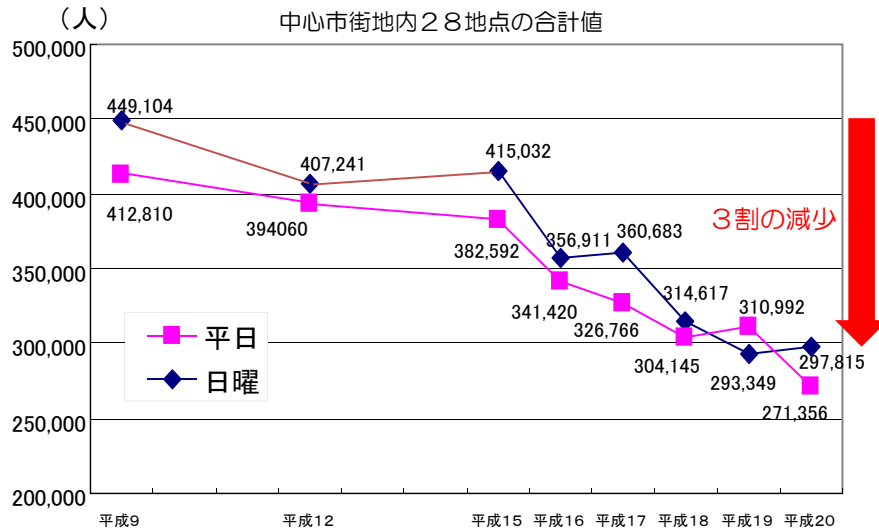
熊本市の年間商品販売額（小売業）



熊本市の中心市街地



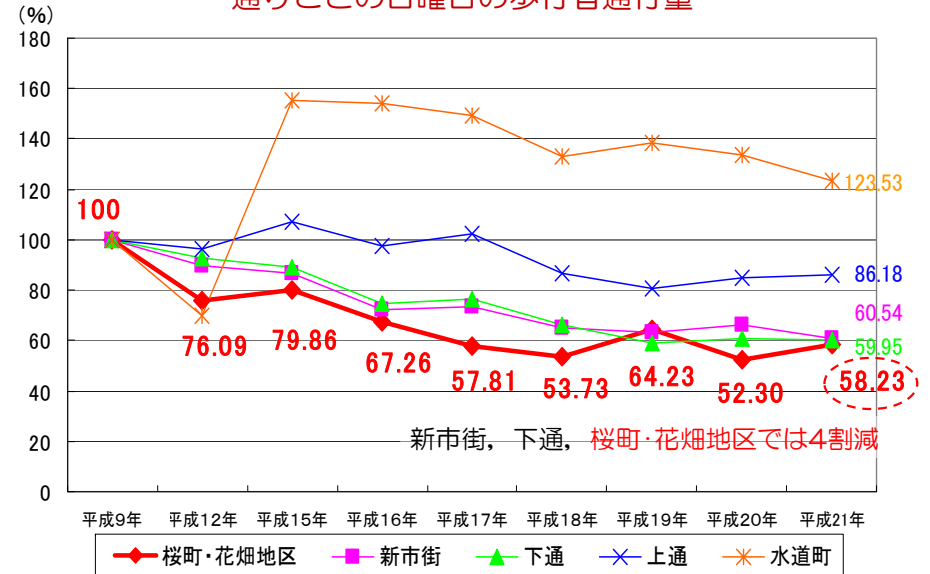
商店街の歩行者通行量



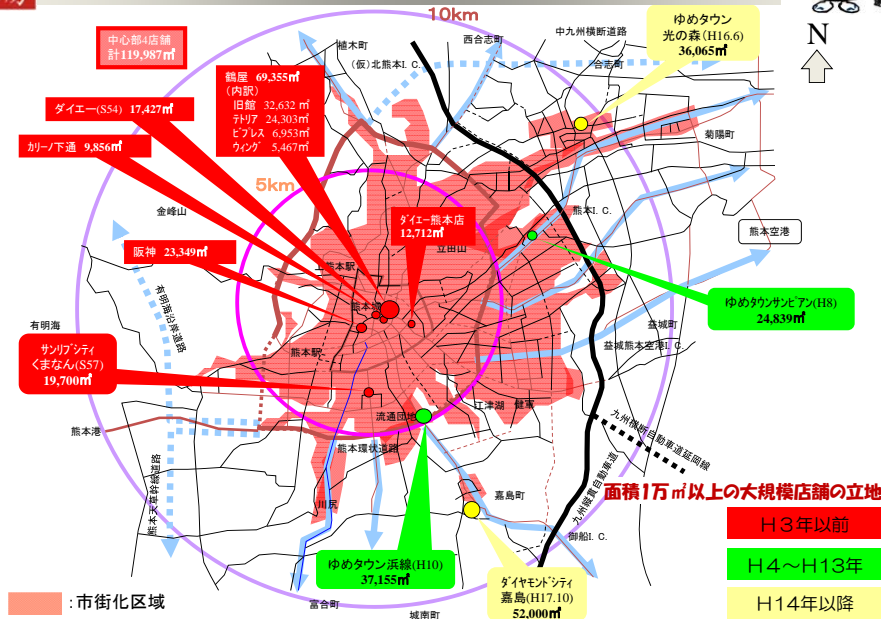
熊本市の中心市街地



通りごとの日曜日の歩行者通行量



熊本市の中心市街地



中心市街地（約400ha）の現況と課題



通町・桜町地区

- 1kmに及び西日本有数のアーケード街
- 商圈は県内一円に及び
- 通行量、小売販売額が減少傾向
- 裏路地に“蔵”などを改装した個性的な飲食店等が出店し新たな賑わいを創出
- 各商店街間や行政との連携も進む



熊本城域地区

- 熊本のシンボル
- 入場者数はピーク時から半減し、年間70万人程度で推移
- 築城四百年を契機とした復元整備・記念イベントの開催で集客力アップを図る
- 今後の利活用が課題

新町・古町地区

- 古い“まち割り”や歴史的建造物が残存
- 近年、マンションなどの立地が進む
- NPOによるペロタクシーの運行など、新幹線の全線開業に向けて民間主体のまちづくりの機運が高まる

熊本駅周辺地区

- 県都の陸の玄関口としては都市機能・景観面が不十分
- 新幹線開業に備え、中心市街地のゲートウェイ的役割を果たすべく都市基盤整備が進む
- 合同庁舎の移転や東A地区市街地再開発事業により、業務機能・情報発信機能を強化

中心市街地活性化基本計画

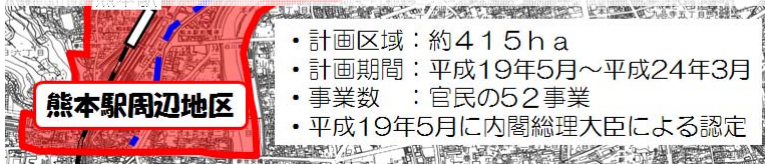


目指すべき将来像

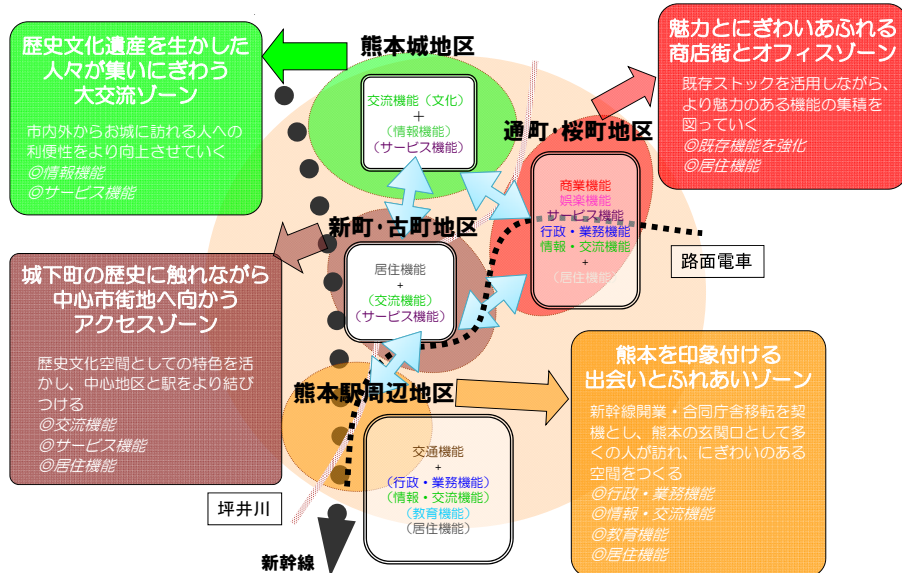
400年の歴史と伝統が息づき城下町の魅力が輝く、九州中央のにぎわいと活力あふれる交流拠点

基本方針

- 人々が活発に交流しにぎわうまちづくり
- 城下町の魅力があふれるまちづくり
- 誰もが気軽に訪れることができるまちづくり



ゾーン別機能配置と相互の連携



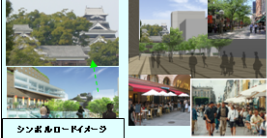
中心市街地活性化基本計画 (桜町地区)



地区全体
 ・地区全体がユニバーサルデザインに配慮された空間形成
 ・熊本城からの眺望、熊本城への眺望を確保し、熊本城と調和した美しい景観の創出
 ・誰もががかりやすい街並み形成

行幸橋付近
 ・自動車と歩行者の円滑な動線の確保と熊本城との連携強化

シンボルロード
 ・熊本城～当地区～新市街をつなぐ軸としての歩行空間形成
 ・桜町・花畑周辺地区における賑わい空間の創出
 ・花畑公園、幸島公園とつながる、公園的な空間形成



桜橋付近
 ・自動車と歩行者の円滑な動線の確保

シンボルロード周辺整備
 ・自動車と歩行者の円滑な動線の確保

複合機能地区
 ・文化・交流・業務・居住等の多様な機能の集積と商業の活性化による賑わい創出
 ・新市街とつながる賑わいある商業地の形成
 ・桜町地区再開発事業の実現

バスターミナル
 ・市電との接続性向上とバスの利便性の向上
 ・誰もが利用しやすいよう配慮したUDの充実
 ・観光客等の回遊拠点となるような機能充実



- 飛騨橋**
 - ・遠足路の無い安全で快適な環境づくり
 - ・歩道が広い
 - ・歩いて楽しい水辺の歩行者空間の形成と新町・古町地区との連携強化
- 業務地区**
 - ・施設のリニューアルや業務機能の集積と賑わいや景観あるまち並み形成
- 城見町通り、銀座通り、西遊館通りとの連携**
 - ・歩道の整備等による歩行強化と、人の流れを呼び込む歩行者空間の形成
- 花畑公園**
 - ・人々が集い交流する場として大橋をシンボルとして守りながら親善の公園の開放性向上
- 文化・交流拠点地区**
 - ・熊本大学市民ホールや国際交流会館等の既存施設と連携し、企画や職能の担を考慮した施設配置
 - ・花畑地区再開発事業の実現
- 新市街との連携**
 - ・歩行者が移動しやすく、人の流れを生み出す空間形成
- 市電電停**
 - ・バスとの接続性向上と市電の利便性向上
 - ・誰もが利用しやすいよう配慮したUDの充実
- 幸島公園**
 - ・回遊の拠点として利用しやすい空間の形成
- 居住の共存地区**
 - ・ファミリー～世界や高齢者など、多様な世代が住みやすい環境づくり
 - ・坪井川の景観を考慮した環境づくり

中心市街地活性化基本計画 (新町・古町地区)



H17年8月
熊本駅都心間[新町・古町地区]協働のまちづくり計画書

〇まちづくりの目標像“城下町都市くまもと”
 〇地域の想いのある24事業を位置づけ

- 24事業の推進**
- ・まちの駅“立寄りどころ”の設置
 - ・旧町名版の設置
 - ・おてもやん像の設置
 - ・人力車の運行開始
 - ・景観形成建造物の改修支援
 - ...

発案段階、合意形成、資金不足...により未着手の事業

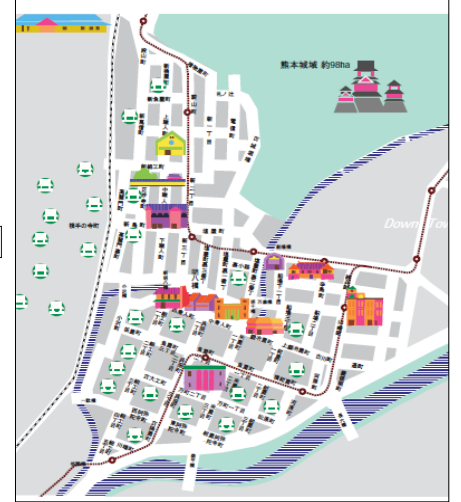
さらなる24事業の推進

H20年4月
熊本市熊本駅都心間協働のまちづくり推進制度創設

新町・古町の魅力や活力の向上を図るため、企画立案、施設整備、イベントなど、ハード・ソフト両面から支援

更なる中心市街地の魅力や活力の向上

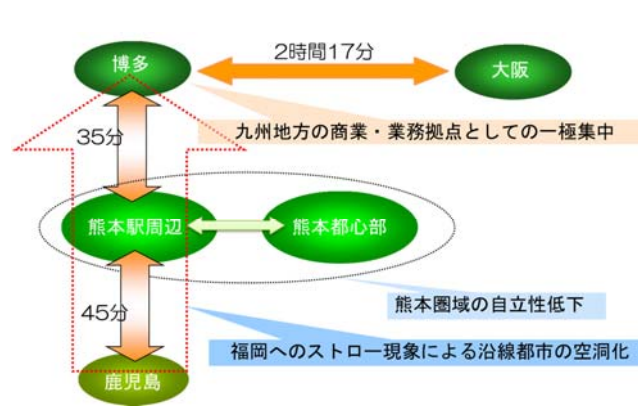
熊本駅都心間[新町・古町地区]協働のまちづくり計画書
 2005(平成17)年8月 熊本駅都心間協働のまちづくり協議会



九州新幹線全線開業とその後の懸念



- 〇平成16年3月 鹿児島中央駅～新八代駅間が先行して部分開業
- 〇平成16年12月 平成23年の九州新幹線全線開業方針決定
- 〇平成22年3月 3月12日全線開業



熊本大学工学部まちなか工房 地域と行政と大学を結ぶプラットフォーム



平成17年5月
 上通並木坂中心商店街に
工学部まちなか工房を開設

- 1) 臨床的実践的都市計画教育
- 2) まちづくりを通じた地域貢献

「まちづくりの家庭医」として、
 中心市街地活性化を
 多面的・重層的に支援

「家庭医」

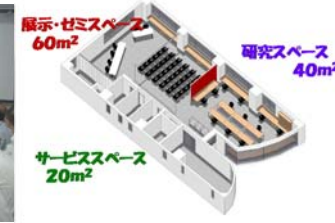
地域に密着し、患者の既往症や家庭環境なども把握した上で、幅広い診療を担う医師。
 「現代のまち医者」病院などの
 専門医と対比した考え方。

大学が、まちにやってきた



熊本市中心市街地活性化にむけた まちなか工房4つの役割

- 1) きめ細かい地域情報の継続的蓄積と紹介
それらを踏まえた課題や計画案の診断
- 2) まちづくりに関する学習機会の企画運営
地元官民組織間の交流機会提供
- 3) 中心市街地活性化に向けた組織連携推進
連携組織の活動調整・支援
- 4) まちづくりに関わる専門知識や技術の提供
工房外専門家の紹介



1) きめ細かい地域情報の蓄積と紹介 それらを踏まえた地域の課題・計画の診断

熊本市中心市街地活性化へ活用
熊本市中心市街地活性化推進委員会
熊本市中心市街地活性化推進室

中心市街地(90ha部分)の
通りの公共空間現状調査

2) まちづくりに関する学習機会の企画運営 官民の組織を超えた交流機会の提供

まちづくり学習会(月例)

- 商店街や企業や県市関係職員
市民、学生、教員を対象
平成24年11月までに81回開催
- 工房の負担で
県内外から講師を招き、
中心市街地の活性化策を討論
毎回30~40人が参加。
- 工房教員、主要商店街の長、
熊本市都心活性化推進室長等
幹事会を構成し、企画運営。



三都市シンポジウム

まちづく学習会秋の拡大企画
すきたい熊本協議会と共催
市広報紙などを使い広く
市民にも広報



まちづくり学習会開催の記録

2005年度	07月07日	2007年度	04月27日	02月18日
まちづくり学習会への招聘講師	近田紳子(近田紳子デザイン事務所) 光のまちづくり	藤田泰和(株)しばた洋車店代表取締役 (熊本市商店街協会 監事役)	佐藤直(早稲田大学) 古庄修治(熊本市交通政策研究会副会長) 堀と成下町を活性化すまちづくり	
07月01日	小村一郎(まちなか工房) 熊本市中心市街地の現状と活性化の課題	博多の花道-新天町の商店街整備と運営について	03月06日	まちなか工房に所属する学生 大学生が提案する中心市街地(熊町桜町地区)のまちづくり構想
08月08日	溝上憲志(まちなか工房) 熊本市中心市街地の現状と活性化の課題	05月25日	2008年度	伊東正京(シアターワークショップ) 劇場やホール施設の整備とまちづくり
09月08日	上野英也(熊本大学設置創造研究センター) 熊本の未来と政定指定都市	06月29日	04月24日	坂井武(熊本市現代美術館) 現代美術館とまちづくりについて
10月13日	小林一郎(まちなか工房) 熊本市中心市街地の現状と活性化の課題	07月20日	05月22日	有村佳子(指宿イレイホテル会長-国土交通省観光カリスラ) 指宿の温泉・観光と健康でまちづくり
11月07日	溝上憲志(まちなか工房) 熊本市中心市街地の現状と活性化の課題	08月28日	06月09日	高橋文彦(熊本市現代美術館) 現代美術館とまちづくりについて
12月19日	上野英也(熊本大学設置創造研究センター) 熊本の未来と政定指定都市		07月10日	有村佳子(指宿イレイホテル会長-国土交通省観光カリスラ) 指宿の温泉・観光と健康でまちづくり
2006年度	04月12日	01月23日		
05月18日	上野英也(熊本大学設置創造研究センター) 熊本の未来と政定指定都市	まちなか工房に所属する学生 大学生から上野英也のまちづくり提案を意見交換		
06月21日	上野英也(熊本大学設置創造研究センター) 熊本の未来と政定指定都市	まちなか工房に所属する学生 大学生から上野英也のまちづくり提案を意見交換		

平成17年~24年度末までに81回の開催
講師の延べ人数は99人、うち工房外75名
テーマ

- ・商店街の活性化に関するもの
- ・芸術、文化、デザインのまちづくりを提案するもの
- ・都市計画の制度や仕組みに関するもの など

3金沢・4岡山・5熊本 三都市シンポジウムの開催

金沢 7月29日(日) 10:00~12:00
入場無料 (定員100名)
会場: 金沢市立市民交流センター

岡山 7月29日(日) 10:00~12:00
入場無料 (定員100名)
会場: 岡山県立美術館

熊本 7月29日(日) 10:00~12:00
入場無料 (定員100名)
会場: 熊本市立市民交流センター



3) まちづくりに向けた組織連携の推進 連携組織の活動調整・推進

佐土原でSC開業！交通影響考

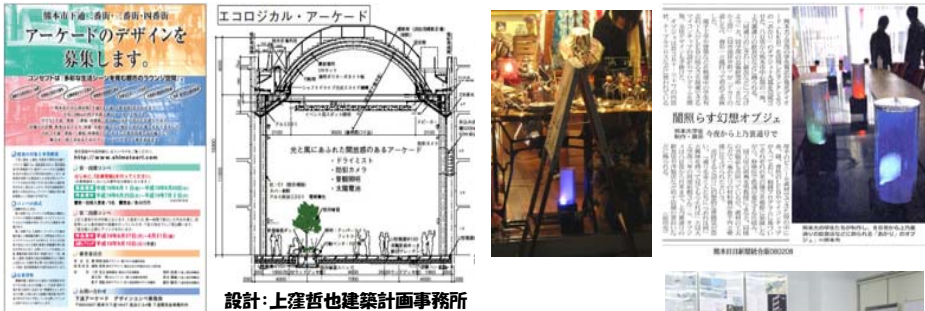
困る渋滞 熊本空港の 備前低下も

熊大「まちなか工房」学習会

- における地元の動向
- 中心商店街等連絡協議会設立 (7商協)
 - 設
 - の大型SC立地申請
 - うづくり学習会開始
 - が学習会運営幹事に参加
 - 協議会準備会の活動開始
 - 活性美化施行
 - 七本部設置
 - ・企業・大学等による中心市「すきたい熊本協議会」設立
 - まちづくり熊本設立
 - 地活性化協議会設立
 - SC立地申請を却下
 - 地活性化基本計画提出
 - 地活性化基本計画大臣認定

まちなか工房 4) まちづくりに関わる専門知識や技術の提供
学内外の専門家の紹介

下通2番街3番街4番街アーケード改修事業 設計者選定設計競技の企画支援 H19・4~8
上乃裏通り地区商店街振興組合設立活動支援 H19・7~H20・8 熊本日日新聞統合版080208



熊本市商店街等連合協議会イベントの運営参加 各年夏・秋・春



まちなか工房 まちなか工房の卒業生の進路
平成17年度~平成22年度

年度	学部生	院生
平成17年度	熊本県警1 福岡市1 大学院進学2	熊本市1 ソフトウェア1
平成18年度	住宅会社1 大学院進学3	計画系コンサルタント3 ソフトウェア1
平成19年度	銀行1 計画系コンサルタント1 大学院進学2	熊本市1
平成20年度	長崎市1 大学院進学2	建設会社1 計画系コンサルタント4
平成21年度	大学院4	計画系コンサルタント3
平成22年度	銀行1 熊本市1 建設会社1 大学院進学1	熊本市1 計画系コンサルタント1

まちなか工房 まちなか工房の経費(1)
平成23年度

事業名:工学部革新ものづくり展開力実践プロジェクト
(平成23~26年度)

ものくり工房 + まちなか工房

区分	金額(千円)
平成23年度事業実施経費総額	55,532
連携相手先負担額	0
大学法人負担額	55,532
内 学内負担額	10,000
運営交付金(文科省)	45,532

注)平成17~21年度はものづくり創造融合工学教育事業(文科省特別教育研究費)

まちなか工房 まちなか工房の経費(2)
平成23年度

うち、平成23年度まちなか工房分

経費区分	費目	金額(千円)
プロジェクト経費	学習会講師謝金	480
	人件費	1,512
	非常勤事務補佐員1人	2,100
運営費	TA	944
	まちなか工房セミナー	1,104
	光熱費など	960
	工房家賃	3,780
計		9,776



まちなか工房プロジェクト 平成17～平成23年度

年度	主要プロジェクト名・連携事業・専門知識支援
平成17年度	・熊本電鉄の市電乗り入れ・LRT化による熊電再生と中心市街地活性化
平成18年度	・熊本電鉄の利用促進のためのモビリティマネジメント実践 ・中心市街地における低・未利用地の有効活用促進施策の提案 ・内閣府全国都市再生モデル調査（熊本市と連携） ・大型店立地による地域交通への影響評価（すきたい熊本協議会と連携） ・都心結節とまちづくりを考える交通社会実験（すきたい熊本協議会と連携）
平成19年度	・熊本電鉄の利用促進のためのモビリティマネジメント実践 ・街区単位の小規模連鎖型再開発手法のFS
平成20年度	・中心市街地におけるエリアマネジメント施策の実践と評価 ・熊本市におけるバス交通のあり方検討業務（協議会委託）
平成21年度	・まちなか居住選好セグメントの分離とその特性分析、およびまちなか居住促進による中心市街地活性化 ・くもと城下まつりにおける市民の回遊・消費行動調査（熊本市委託） ・熊本市都市計画マスタープラン策定業務（熊本市委託） ・国交省地域景観づくり緊急支援事業（熊本市と連携）
平成22年度	・全国まちづくり会議in熊本の共催（NPO法人都市計画家協会） ・熊本市銀座通り歩行者空間整備事業業務（熊本市委託） ・地域再生実践塾の開催（財）地域活性化センターからの依頼）
平成23年	・銀座通り歩行者空間整備事業受託研究業務（熊本市委託） ・商店街歩行者通行量および消費・回遊動向調査業務（熊本市委託）



まちなか工房の外部資金 平成23年度

年度	業務名	委託者	受託経費
23	合志市地域交通計画策定（研究）受託研究業務	合志市	2,472,403円
	合志市重点区域土地利用計画策定業務	合志市	7,528,500円
	商店街歩行者通行量及び消費・回遊動向調査	熊本市	2,152,500円
	銀座通り歩行者空間整備検討業務	熊本市	2,060,000円
	小計		14,238,583円
22	合志市地域交通計画策定（研究）受託研究業務	合志市	2,866,500円
	銀座通り歩行者空間整備事業受託研究業務	熊本市	8,208,600円
	荒尾市地域公共交通の状況調査及び今後の方針検討業務	荒尾市	2,000,000円
	小計		13,075,100円
21	合志市地域交通計画策定（研究）	合志市	4,189,500円
	熊本市におけるバス交通のあり方検討業務	熊本市・・・協議会	8,344,500円
	バス乗換拠点改善検討業務	熊本市	6,000,000円
	熊本市地域景観づくり緊急支援事業業務	熊本市（国交省）	9,176,000円
	合志市地域交通計画策定（研究）	合志市	3,000,000円
	熊本市におけるバス交通のあり方検討業務	熊本市	9,000,000円
	小計		39,710,000円
	合計		67,023,683円



まちなか工房の運営における 尽きない悩み

- 1) 信頼関係構築に欠かせない地域の組織との多忙なる「日常のおつきあい」が欠かせない
- 2) スタンスの異なる行政各課や、価値観の異なる市民団体等との間の火つけ役・根回し役・愚痴の聞き役・なだめ役など、気疲れの多い振舞いを求められる
- 3) 社会が求めるスケジュール管理や作業品質確保のため教育現場にとっては負担感が大きい
- 4) 各種取り組みにおける発言や判断について地域の一員としての責任（感）を求められる



まちなか工房のとりあえずの成功の秘訣

- 1) 「工学部」だけの単一組織
 - ・目的や思考方法が類似
 - ・責任体制が明確で運営が容易
- 2) 教育・研究テーマが「まちなか」だけ
 - ・狭いテーマで深く
 - ・市や商店街のニーズに対応
- 3) 「街の真ん中」にオフィス
 - ・目の前に実例、調査の前線基地
 - ・だれでもいつでも立ち寄り
- 4) 商店街と市役所との幹事会
 - ・目的の共有
 - ・政策へ

まちなか工房の活動からチラッと見える まちづくり活動の課題

- 1) 学んだことを具体的な行動・コミットメントへ！
→熊電LRT化計画の中断決定に、すきたい熊本協議会からのコミットメントは？まちづくりの主役のはずが……
- 2) イベント（仕掛け）からマネジメント（仕組み）へ脱皮を！
→ストリート・アートプレックス熊本
→ゴミの共同回収による中心市街地エリアマネジメント
→城下町という生活空間の回復
- 3) 自主財源確保へも一歩前へ！
→まちづくり熊本の活動・桜馬場活用戦略
→コミュニティファンドによる資金計画や日本型TIFのFS

戦略的な仕掛けと仕組み

まちなか工房の一歩前への活動

受講者募集中！ 参加費無料！

熊本大学まちなか工房の
計画立案や協同学習のための討論技術習得講座
自ら企画・運営できる人になる

H25年
1月25日(金)
18:30~21:00

第1回 アイデア出しを支援する

●随申課題で討論体験
▲基本の考え方の解説

●随申課題＝エゴの取り組みアイデアを出す
▲発想を促し、討論に参加する責任と期待を高める
◆中学生が自ら取り組むエゴ活動についてアイデア出しをするためのグループ学習を企画する。

【協賛人員】
先着15人
お申し込みの
は、要領に準
ってください

H25年
2月1日(金)
18:30~21:00

第2回 コトの本質を多面的に捉える

●随申課題＝空き缶ショップ
▲自らが明確で単純な作業を渡し発想を相互補充する

◆上流、上り流通、下流、新市街、センタープラザ、福野古書店、福野古書店の特性（市民の意識）の調いを明確にし、中心市街地の活性化を考えるワークショップを企画する。

【協賛】
藤田 秀男
《まちづくり課
特定事業研究員》

H25年
2月8日(金)
18:30~21:00

第3回 P D C A を C ベースで考える

●随申課題＝英会話の上達法/効果的ダイエット法
▲成果指標と事業指標、事業と成果の因果関係を明確にする
◆虫歯予防の結核コントロールに参加した小学校は、しなかった小学校に比べ、児童の平均虫歯保有数が多いだろうか？「あいさつ通り」の指数がある高学路は、ない高学路に比べあいさつする人が多いだろうか？……成果の計測方法を事前に確定するためのワークショップを企画する。

お問い合わせお申込み（上通り熊本 大講堂裏2F）
熊本大学工学部まちなか工房 梶池 田島
e-mail:machi-kobo@cotton.ocn.ne.jp
tel/fax:096-326-9502
Kumamoto University

まちなか工房の一歩前への活動

